

都道府県名

岡山県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	勝山町立勝山中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	25
生徒数	91	93	121	1	306	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の定着を図る 個に応じた学習指導の改善

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全教科・全学年でおこなう

本年度は特に次の教科で研究を進めている

1・2・3年〔英語科〕(習熟の程度に差が出やすい教科であるため)

1・2年〔数学科〕(習熟の程度に差が出やすい教科であるため)

1・2・3年〔理科〕(実験や作業をともなう教科であるため)

2・3年〔選択教科〕(個に応じた発展的な学習や補充的な学習が実施できる)

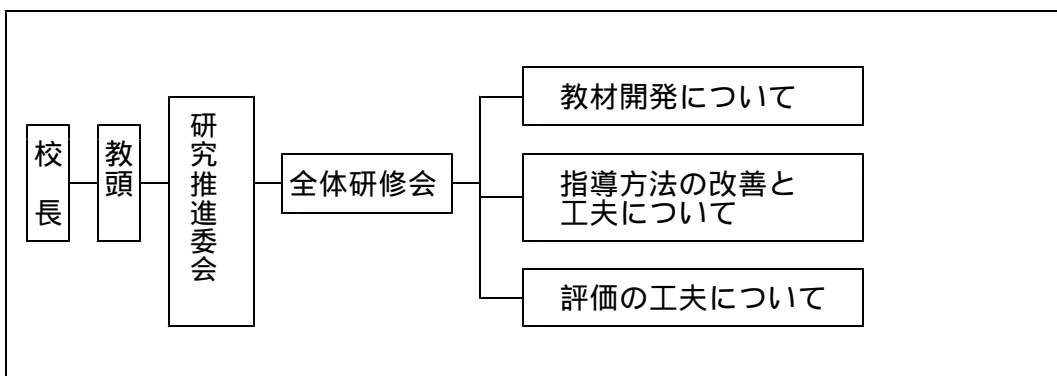
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力の定着を図る 個に応じた学習指導の改善</p> <p>研究の見通し 生徒の学力や特性を把握して個の実態に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を図れば、生徒一人ひとりの学習意欲が改善し、確かな学力が定着するであろう。</p> <p>研究内容・方法 (1)授業時数確保のための手だてを工夫する ・行事や学年活動の見直し ・欠課授業の補充等の工夫 (2)学習意欲を高め、確かな学力の定着を図るために有効な教育活動の展開 ア、日常の授業改善・充実を図る方法を研究し、実践する ・習熟度別学習指導の工夫改善 ・少人数指導、ティームティーチング指導の効果的な指導方法の研究 イ、個に応じた指導、学習意欲を高めるための教材開発を行う ・習熟度別の学習プリントなどの教材開発 ・学習の遅れを補う補助的な教材の作成と蓄積 ウ、指導に生きる評価のあり方について研究する ・自己の学習の改善に生かせる、指導と一体化した評価のありかた ・定期テストの内容の検討、生徒の学力診断のための分析 エ、個に応じた指導の指導案や指導資料を蓄積し、研究の過程での成功や失敗例を次の研究に生かす</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 確かな学力の定着を図る 個に応じた学習指導の改善</p> <p>研究の見通し 生徒の学力や特性を把握して個の実態に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を図れば、生徒一人ひとりの学習意欲が改善し、確かな学力が定着するであろう。</p> <p>研究内容・方法 (1)学習意欲を高め、確かな学力の定着を図るための有効な教育活動の展開</p>
--------	---

- ア、日常の授業改善・充実を図る方法を研究し、実践する
 - ・習熟度別学習の実践と工夫改善
 - ・少人数指導、チームティーチング指導の効果的な指導方法の研究
 - イ、個に応じた指導、学習意欲を高めるための教材開発を行う
 - ・習熟度別の学習プリントなどの教材開発
 - ・学習の遅れを補う補助的な教材の作成と蓄積
 - ウ、指導に生きる評価のあり方について研究する
 - ・自己の学習の改善に生かせる 指導と一体化した評価のありかた
 - ・定期テストの内容の検討、生徒の学力診断のための分析
 - エ、個に応じた指導の指導案や指導資料を蓄積し、研究の過程の成功・失敗例を次の研究に生かす
- (2)望ましい生活習慣の育成
- ・学習規律と生活リズムの確立
 - ・生徒会と連携を図り、よりよい校風づくりに取り組む
 - ・家庭学習を習慣化させるための取り組み

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 1) 英語科の習熟度別コース別学習の取り組み
 - Aコース（基礎定着コース）：教科書の基本的な事項の反復練習を多く取り入れ、基礎の定着を図る。
 - Bコース（基礎充実コース）：教科書を中心に進めながら、応用的な問題も取り入れ、発展的な力の充実を図る。
- 2) アンケート結果から見る成果と課題

3年生を対象に1学期と3学期に実施したアンケートの一部をもとに、本年度の習熟度コース別少人数指導の成果と課題を以下のように考える。
 (アンケート回答者 Aコース56人 55人 Bコース60人 56人)

アンケート項目	Aコース		Bコース	
	1学期	3学期	1学期	3学期
英語に興味がある				
A：とてもそう思う	4	5	25	25
B：どちらかというと思う	20	18	27	24
C：どちらともいえない	17	15	3	5
D：どちらかというと思わない	10	7	4	1
E：そう思わない	5	10	1	1

アンケート項目	Aコース		Bコース	
	1学期	3学期	1学期	3学期
英語の授業が楽しくなった				
A：とてもそう思う	13	13	25	31
B：どちらかというと思う	23	23	25	15
C：どちらともいえない	12	10	5	10
D：どちらかというと思わない	5	3	2	0
E：そう思わない	3	6	3	0

アンケート項目	Aコース		Bコース	
授業がわかりやすくなった	1学期	3学期	1学期	3学期
A：とてもそう思う	19	9	33	36
B：どちらかというそう思う	26	19	20	18
C：どちらともいえない	7	18	5	2
D：どちらかというそう思わない	2	3	1	0
E：そう思わない	2	6	1	0

アンケート項目	Aコース		Bコース	
成績が伸びた	1学期	3学期	1学期	3学期
A：とてもそう思う	8	5	17	20
B：どちらかというそう思う	14	13	28	15
C：どちらともいえない	23	18	13	16
D：どちらかというそう思わない	2	11	0	2
E：そう思わない	9	8	2	3

「英語の授業は楽しくなった」と考えている生徒は、1学期は86人、3学期は82人で、どちらのコースの生徒もコース別指導を肯定的に受け止めていることがわかる。「授業がわかりやすくなった」と答えた生徒も1学期は98人、3学期は82人と多く、それぞれのコースに合わせた指導方法が効果を上げていると考えられる。基礎・基本の力をつけるためには、まず「学ぼうとする意欲」が大切である。意欲を高めるためには「楽しい」ことと「わかる」ことが不可欠であるので、その意味において、コース別授業は効果を上げていると考えられる。

2. 今後の課題

一方、「成績が伸びた」と答えた生徒は、1学期67人、3学期は53人とやや少なくなっている。基礎的な学力が定着していないと思われる生徒に対しては、放課後学習を行ってきたが、継続的に努力しないと確かな力は定着しないので、家庭学習を定着させるための工夫がさらに必要であると思う。授業態度や家庭学習についての自己評価のあり方についても研究する必要がある。

コース選択でとまどう生徒もいる。より効果的な指導を求めるならば3コース制にすることがベストだと思われるが、本校の現状では不可能である。2コース制でいかに生徒の力を伸ばしていくかを常に考え、各コースの目標設定や指導方法のあり方を工夫していかなくてはならない。

学力把握のための学校としての取組

学習アンケートの実施
定期的な学力調査の実施

- ・ CRT（観点別到達度検査）の実施

英語	2年・3年	1学期実施
	2年・3年	3学期実施予定
数学	1年・2年	1学期実施
	1年・2年	3学期実施予定

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成16年度 研究会開催予定

2学期実施予定	場所：勝山中学校
テーマ：	確かな学力の定着を図る個に応じた学習指導の改善
対象：	美作地区内の中学校

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無